

▲ゲームを楽しむ子どもたち。多くの親子が来場しました

ゲームで親子の絆を深める

109-one「親子まつり」

10月11日、鬼小十郎まつりに合わせ、移住交流サポートセンター109-oneで「親子まつり」が開催されました。会場には輪投げや射的など手作りの７種類のゲームを用意。多くの親子が来場し、ゲームを楽しんでいました。

また、この日は白石市応援学生団体「のびshiro」のメンバーも会場を盛り上げていました。



▲天守閣で濃茶を堪能する参加者

白石城天守閣でお茶を一服

白石城開門30周年記念事業「第27回白石城茶会」

９月21日、白石城で秋の恒例行事の市民茶会「第27回白石城茶会」が開催されました。

席主に江戸千家十一世家元川上閑雪宗匠をお迎えし、参加者は天守閣１階で点心と地酒を堪能。その後２階に移動し、濃茶をいただきました。参加した皆さんは、白石城の歴史に思いを馳せながらお茶を楽しんでいました。



▲みんなで息を合わせて元気に体操！

百歳体操で元気長続き！

第６回白石市いきいき百歳体操大交流会

10月10日、ホワイトキューブで「第６回白石市いきいき百歳体操大交流会」を開催しました。この日は、市内の通いの場など27団体から約160人が参加し、立ち上げから10年を迎える８団体の表彰が行われました。参加者は音楽に合わせて体を動かしながら、笑顔で交流を楽しみ、和やかなひとときとなりました。



▲楽しそうにサツマイモを掘る園児たち。たくさん収穫しました！

秋空に園児の歓声響く

みのり保育園の園児がサツマイモ掘り体験

10月８日、みのり保育園の４歳から６歳の園児35人がサツマイモ掘りを体験しました。同園では食育の一環として、畑を借りてサツマイモを栽培。地域の協力もあり、この日は大きく育ったサツマイモ約150キロを収穫しました。体験した園児たちは「大きなおいもがたくさんとれた！」と歓声を上げていました。

市民文芸

応募方法　１人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内（未発表のものに限る）。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292　白石市大手町１-１白石市総務課へ。**はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。**
毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。（✉koho@city.shiroishi.miyagi.jp）

歌壇　岩崎聰之介選

剪定中途入院せし夫思わるる脚立熱そう庭に照る秋　末吉アツ子

新盆の仏間の夜半の絵灯籠見つれば寂し亡夫へ語り掛く　菊地せつ子

白無垢の孫と写れる此の一枚あの日忘るまじ婆には宝　阿部かつみ

秋彼岸畦道遠くまで墓参り昔父母と歩きしよ此処　星　明

日に温き庭のミニトマトこれで終り二粒づつを夫と分け合ふ　寺崎悦子

一雨を期待しながら猛暑日のけふも一日を無為に過ごしぬ　齋藤　巖

お茶請けは茄子漬け二本丸かじり話弾めり友も旨しと　佐藤啓子

昔むかし私が唄った子守唄三十路の孫の唄えるを聴く　佐藤喜恵子

丁寧におつき合いせしわが母や葬式百人余今に思い出す　小室アイ子

ありがたや妻と暮らして五十年居ればうるさし居なけりゃ寂し　我妻孝則

評　一首目、暑い秋か、夫を気づかう作者。脚立もまた**その**お帰りを待つものなのであろう。三句目は、思は**るる**ことだの略。
二首目、仏間の夜半の様子、丁寧な描写で引き込まれる。昨年夏に旦那さまご逝去。
三首目、晴れやかなお二人の写真が思われる。宝だとした結句が響く。

俳壇　山家弘子選

かなかなやこの世とあの世鳴きとおす　佐川　鉄輪

十六夜を亡夫も見よと窓を開け　菊地せつ子

秋野菜恵みの雨に生きかえる　志村かつい

登園の泣き顔の子や蝉時雨　平間　幸恵

里山の緑の風吹く小道かな　木村　芳香

青空を色どりをりぬ百日紅　山田　もも

お城山夕焼け染まる天守閣　星　明

草むらに虫達集い声をふる　村上八重子

草むらに虫の声聞く風呂上がり　佐藤　啓子

塀に沿い摘みし茗荷の十数個　末吉アツ子

評　一句目、かなかなは夜明けや日暮に高く美しい哀愁を帯びた声で鳴く。あの世でも鳴くと言いきったことで深い句になった。
二句目、月の出が名月よりも遅れるので淋しさがある。その月を亡き夫にも見せたいというその思いに胸が熱くなる。
三句目、雨が降らず庭の草花が枯れ初めたのを思い出す。野菜ともなれば気がもめたことであろう。雨がやっと降ってくれた安堵。

柳壇　四竈英夫選

救急車来れば見守るご近所さん　木村　芳香

水不足片や洪水自然界　山田　もも

政権に米増産の旗振られ　星　明

青空は今日も極暑を連れて来る　村上八重子

体温を超える気温の新記録　佐藤　啓子

シャワーだけ湯船はいらん酷暑の日　我妻　孝則

老いの家曾孫の声や天使の瞳　遠藤　松雄

無事ですとペナント下げた防災日　小室アイ子

半月ぶり家へ戻れば雑草の山　大庭美智子

深呼吸人それぞれの幸がある　星　明

評　一句目、ピーポーやサイレンが鳴ると、つい表へと救急車どこだどこだと出し遠ざかってホッとする。「救急車どこだどこだ人が出る」。
二句目、酷暑水不足の一方、大雨洪水の被害も。自然界の脅威と人間の無力さが。「沿にいて乱を忘れず、備えあれば憂いなし」。
三句目、米余りの時代から一転米不足。備蓄米の放出など米価の抑制が続いている。猫の目農政などと酷評された時代を思い出す。

Shiroishi Market

フレッシュマーケット

～地元農産物の魅力を発信～

地元の農産物や直売所などの魅力をお届けします。
～白石市農産物直売所連絡協議会は、地産地消を推進！～

市内の農産物直売所情報▶



▲「土垂芋」の見た目は、コロンとした膨らみのある楕円形が特徴です

「里芋」に栄養と歴史あり！

縄文時代に伝わったとされる里芋は、日本ではお米より先に主食とされていた歴史ある野菜で、市内でも昔から作られています。「白石三白野菜」のひとつである里芋の品種「土垂芋」は、粘り気とほくほくとした食感を楽しむことができ、煮崩れしにくいので汁物や煮っ転がしに最適です。

また、里芋は高血圧やむくみ予防、胃の粘膜保護などに役立つと言われ、食物繊維も豊富なため、健康上の効果が期待できます。栄養満点の里芋料理で温まりながら、寒い季節を乗り切りましょう！

問農林課　☎22-1253